

大阪府政 隣から見ると

大阪が変われば日本全体が変わる



これまで大阪では、国保料統一化による保険料の引き上げや医療費助成改悪など、様々な問題があり、大阪府歯科保険医協会は府民の健康を守るために、維新政治に対し運動に取り組んできた。そうした中で、4月9日に実施される統一地方選挙は大阪府を変える大きなチャンスだ。共に取り組んできた大阪府保険医協会が、改めて大阪府政を考え直す企画として、3月11日、神戸女学院大学名誉教授の石川康宏氏と内田樹氏の緊急対談企画「大阪府政を隣から見ると」を開催した。この対談企画の要旨を紹介する。

教育政策に如実に表れる政治家の世界観

内田 今回のテーマは大阪府政に関してですが、政治家の世界観は、教育政策にむき出しになって表れるように感じます。その意味で、私が2010年に当時の平松邦夫大阪市長から要請を受けて教育に関する特別顧問を務めていたことを思い出します。特別顧問の就任にあたり、私は大きく3点の願いを述べました。

1点目は「市長として教育に関与することは控えてほしい」ということです。教育とは、これまで蓄積されてきた現場の経験に基づいて慎重に運用されています。選挙で民意を得たとはいえ、一人の首長の思いで軽々に変えてよいものではありません。

2点目は、「教育の独立性を守ってほしい」ということです。そもそも教育は、社会的共通資本の一つとして政治やマーケットからできるだけ切り離すべき存在です。もし、政治とのリンクが強まれば、選挙のたびに教育方針・内容が変わってしまうおそれがあります。

また、マーケットも日々目まぐるしく変化し、市場の状況や技術が変われば求める人材も変わります。こうした変化に振り回されて一番困るのは子どもたちに他なりません。教育に関しては拙速な変化は好ましくないため、独立性を守る必要があるのです。

3点目は「メディアが教育へ関与することも控えてほしい」ということです。メディアは変化を伝えることが仕事であり、教育に関われば、自然と変化を求めていきます。しかし、すでに述べたように教育に拙速な変化は好ましくありません。熟慮しながらゆっくりと変えることが重要なのです。

こうした私の思いを平松市長は尊重してくれましたが、翌2011年の選挙で橋下徹市長に代わってしまいました。そして橋下氏は、「僕が「やらなideほしい」と述べたことを悉く実行に移していったのです。公的教育を破壊して「塾代補助」の欺瞞

内田 樹氏



石川 康宏氏



そのため、上からのトップダウンではなく、現場の意見や要請を受けた

とも学ぶことができる公教育の充実こそが必要で、公教育を破壊しておきながら、民間に公金を支出して実績とするのは、実にねじれた話だと思います。

「勝つイコール正しい」の思想がもたらした腐敗

石川 また、教育の話でもう一つ思い出すのは、2008年の橋下徹府知事の発言です。当時、橋下府知事は大阪府の財政再建策として私立学校への助成を大幅に削減しようとした。これに対して、高校生たちが「当事者の声を聞いてほしい」と直談判したのである。

石川 内田先生も触れられたように、大阪では教育の前身にまで政治が介入し、予算も切り詰められ、現場に多くの縛りがかけられました。そして多くの公立学校が廃校に追い込まれました。大阪府知事は「塾代補助」を、教育の実績として盛んにアピールしています。非常におかしい話です。本来なら、塾に行かず

わかっていいはずがないと強く思いました。内田 「権力者になって初めて権力を批判できる」という思想が広まったのはまさに維新の会の影響が大きいと感じています。私はこの思想を「パワークラシー」と呼んでいます。「権力を持って人間が主権者」であり、逆に「権力のない人間は権力を批判する資格がない」というのです。これは、絶対的な現状肯定のロジックに他なりません。

否について、本来関係がないはずの得票数の多寡と結びつけようとしています。2015年の大阪都構想の住民投票後に、橋下氏は「住民投票で敗れたのは都構想が間違っていたからだ」と述べました。しかし、得票数の多寡と政策の適否は何の関係もありません。得票数が多ければ、その政党・個人が支持する政策が優先的に実現される可能性が高いというだけであって、政策が正しいか間違っているかということについては次元が異なる問題です。

さらに、パワークラシーの社会では、政策の適正は別次元の問題です。実際に、圧倒的多数の支持を受けた政党・個人が亡国的な政策を展開することはありますし、逆に

非常に正しい政策を掲げている政党が全く票を得られないということが、現在見られています。私は橋下氏の発想は本当に問題であり、危機感を覚えていました。しかし、今や、パワークラシーの発想は日本全体を覆いつくしてしまっています。先日自民党の世耕弘成参院幹事長は「アベノミクスは失敗していない。なぜなら選挙で勝っているからだ」と言い放ちました。民意を得ているから、自分たちの政策は正しいというのです。

また、一部の野党も選挙で勝てないのは政策が悪いからだ、と与党にすり寄り「現実的な政策」「提案型政党」などと述べようになっています。こうした暴力的なロジックが、2010年代以降の日本の政治文化を、腐敗・墮落させた決定的な要素であり、その伏線が維新の会にあつたように思えてなりません。

また、一部の野党も選挙で勝てないのは政策が悪いからだ、と与党にすり寄り「現実的な政策」「提案型政党」などと述べようになっています。こうした暴力的なロジックが、2010年代以降の日本の政治文化を、腐敗・墮落させた決定的な要素であり、その伏線が維新の会にあつたように思えてなりません。

また、一部の野党も選挙で勝てないのは政策が悪いからだ、と与党にすり寄り「現実的な政策」「提案型政党」などと述べようになっています。こうした暴力的なロジックが、2010年代以降の日本の政治文化を、腐敗・墮落させた決定的な要素であり、その伏線が維新の会にあつたように思えてなりません。

また、一部の野党も選挙で勝てないのは政策が悪いからだ、と与党にすり寄り「現実的な政策」「提案型政党」などと述べようになっています。こうした暴力的なロジックが、2010年代以降の日本の政治文化を、腐敗・墮落させた決定的な要素であり、その伏線が維新の会にあつたように思えてなりません。

また、一部の野党も選挙で勝てないのは政策が悪いからだ、と与党にすり寄り「現実的な政策」「提案型政党」などと述べようになっています。こうした暴力的なロジックが、2010年代以降の日本の政治文化を、腐敗・墮落させた決定的な要素であり、その伏線が維新の会にあつたように思えてなりません。

また、一部の野党も選挙で勝てないのは政策が悪いからだ、と与党にすり寄り「現実的な政策」「提案型政党」などと述べようになっています。こうした暴力的なロジックが、2010年代以降の日本の政治文化を、腐敗・墮落させた決定的な要素であり、その伏線が維新の会にあつたように思えてなりません。

また、一部の野党も選挙で勝てないのは政策が悪いからだ、と与党にすり寄り「現実的な政策」「提案型政党」などと述べようになっています。こうした暴力的なロジックが、2010年代以降の日本の政治文化を、腐敗・墮落させた決定的な要素であり、その伏線が維新の会にあつたように思えてなりません。

また、一部の野党も選挙で勝てないのは政策が悪いからだ、と与党にすり寄り「現実的な政策」「提案型政党」などと述べようになっています。こうした暴力的なロジックが、2010年代以降の日本の政治文化を、腐敗・墮落させた決定的な要素であり、その伏線が維新の会にあつたように思えてなりません。

また、一部の野党も選挙で勝てないのは政策が悪いからだ、と与党にすり寄り「現実的な政策」「提案型政党」などと述べようになっています。こうした暴力的なロジックが、2010年代以降の日本の政治文化を、腐敗・墮落させた決定的な要素であり、その伏線が維新の会にあつたように思えてなりません。

また、一部の野党も選挙で勝てないのは政策が悪いからだ、と与党にすり寄り「現実的な政策」「提案型政党」などと述べようになっています。こうした暴力的なロジックが、2010年代以降の日本の政治文化を、腐敗・墮落させた決定的な要素であり、その伏線が維新の会にあつたように思えてなりません。

石川 康宏氏と内田 樹氏が語る

【特別対談】

【講師プロフィール】

いしかわ やすひろ

1957年北海道生まれ。経済学者。神戸女学院大学名誉教授。「平和・民主・革新の日本をめざす全国の会」代表世話人。

著書に『今、「資本論」をともに読む』『若者よ、マルクスを読もう』『先住民族アイヌを学ぶ藤戸ひろ子さんに聞いてみた』『社会のしくみのかじり方』『人間の復興か、資本の論理か3・11後の日本』『おこぼれ経済』という神話』ほか多数。

うちだ たつる

1950年東京都生まれ。思想家、武道家、翻訳家。神戸女学院大学名誉教授。2010年には平松邦夫大阪市長のもとで市長特別顧問も務める。

著書に『ためらいの倫理学』『レヴィナスと愛の現象学』『日本の身体』『街場の戦争論』ほか多数。『私家版・ユダヤ文化論』で小林秀雄賞、『日本辺境論』で新書大賞受賞、著作活動全般に対して伊丹十三賞受賞。

「塾代補助」の欺瞞

石川 内田先生も触れられたように、大阪では教育の前身にまで政治が介入し、予算も切り詰められ、現場に多くの縛りがかけられました。そして多くの公立学校が廃校に追い込まれました。大阪府知事は「塾代補助」を、教育の実績として盛んにアピールしています。非常におかしい話です。本来なら、塾に行かず

また、一部の野党も選挙で勝てないのは政策が悪いからだ、と与党にすり寄り「現実的な政策」「提案型政党」などと述べようになっています。こうした暴力的なロジックが、2010年代以降の日本の政治文化を、腐敗・墮落させた決定的な要素であり、その伏線が維新の会にあつたように思えてなりません。